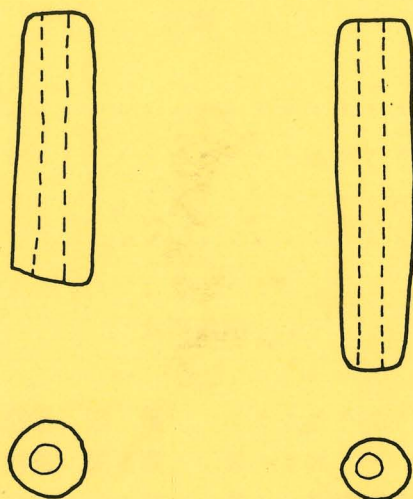


# 阿曾遺跡の調査

— 太子町道立岡山線改良工事に先立つ遺跡確認調査 —



1992年12月

太子町教育委員会

# 例言

- 1 本書は、太子町道立岡山線改良工事に先立ち実施した遺跡確認調査の概要報告である
- 2 調査は、兵庫県揖保郡太子町阿曾字奥ノ本488-1番地外30筆において、平成4年10月19日から同23日にかけて実施したものである。
- 3 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次、田村三千夫、海野浩幸が担当した。
- 4 調査・整理作業に当たっては、太子町シルバー人材センター、岩村千穂、伊藤慶子、中村豊子、小山真紀各氏の協力を得た。
- 5 本書の執筆・編集は、田村三千夫、海野浩幸が担当した。

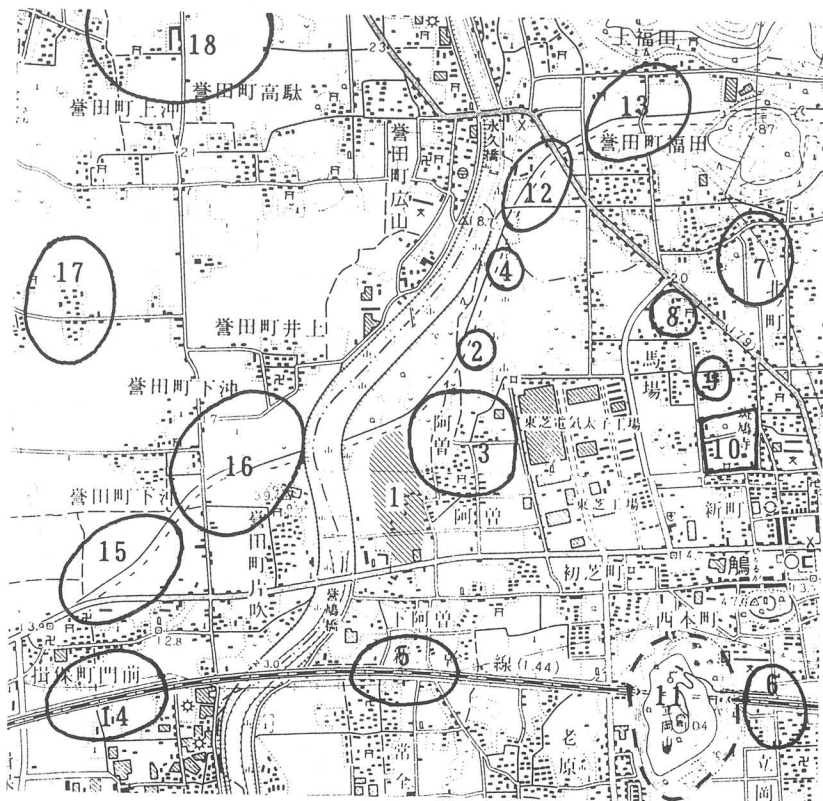
## 本文目次

### 例言

調査に至る経過	2
調査の概要	2
出土遺物	7
まとめ	11

## 図版目次

第1図 周辺遺跡分布図	1	第7図 遺物実測図(1)	7
第2図 調査位置図	2	第8図 遺物実測図(2)	8
第3図 グリッド・トレンチ配置図	3	第9図 遺物実測図(3)	9
第4図 土層・遺構実測図(1)	4	第10図 遺物実測図(4)	10
第5図 土層・遺構実測図(2)	5	第11図 遺物実測図(5)	11
第6図 土層・遺構実測図(3)	6	表1 遺物観察表(1)	12
		表2 遺物観察表(2)	13
写真1 調査前風景	上 1工区(北から) 下 2工区(南から)	写真5 上 G-9 下 G-10	
写真2 発掘調査風景		写真6 上 G-11 下 G-15	
写真3 上 G-1 下 G-4		写真7 上 G-16	
写真4 上 G-7 下 G-8			下 G-16土坑検出状況
		写真8 G-16土坑遺物出土状況	



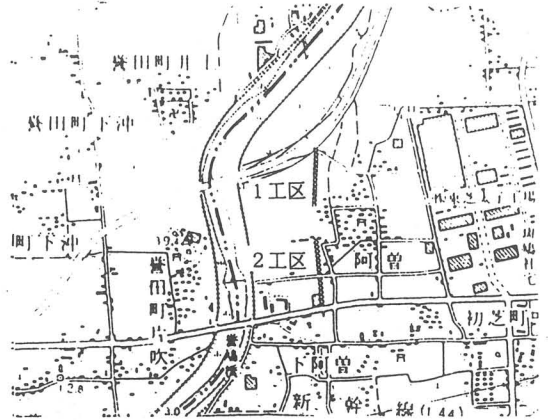
第1図 周辺主要遺跡分布図 (S=1/25,000)

- |           |           |
|-----------|-----------|
| 1 調査地点    | 10 斑鳩寺遺跡  |
| 2 阿曾丁田遺跡  | 11 立岡山古墳群 |
| 3 阿曾高屋堂遺跡 | 12 福田片岡遺跡 |
| 4 春日社跡遺跡  | 13 福田天神遺跡 |
| 5 常全遺跡    | 14 門前遺跡   |
| 6 立岡遺跡    | 15 宝林寺北遺跡 |
| 7 城山遺跡    | 16 片吹遺跡   |
| 8 馬場遺跡    | 17 桜ヶ坪遺跡  |
| 9 馬場古屋敷遺跡 | 18 宮脇遺跡   |



## 阿曾遺跡の調査

- 1 所在地  
兵庫県揖保郡太子町阿曾字奥ノ本  
488-1番地外30筆
- 2 調査主体者  
太子町教育委員会
- 3 調査担当者  
三村修次、田村三千夫、海野浩幸
- 4 調査期間  
平成4年10月19日～23日
- 5 調査面積  
85㎡
- 6 記録作成  
土層断面図(1/20)・遺構実測図(1/10,1/20)・遺物実測図(1/10)  
写真(モノクロ35mm, カラー35mm, カラーリバーサル35mm,)



第2図 調査位置図

国土地理院 1/25,000(網干・龍野)

### 7 調査に至る経過

太子町阿曾地区は太子町の西端に位置し、林田川東岸の標高13~16mの自然堤防上に立地している。周辺には周知の遺跡として中世の阿曾高屋堂遺跡、国道2号線を挟んで南方には縄文晩期の常全遺跡、北方では中世から近世にかけての馬場春日社跡遺跡をはじめ、龍野市域では弥生中期から中世にかけての福田片岡遺跡等の存在が知られている。

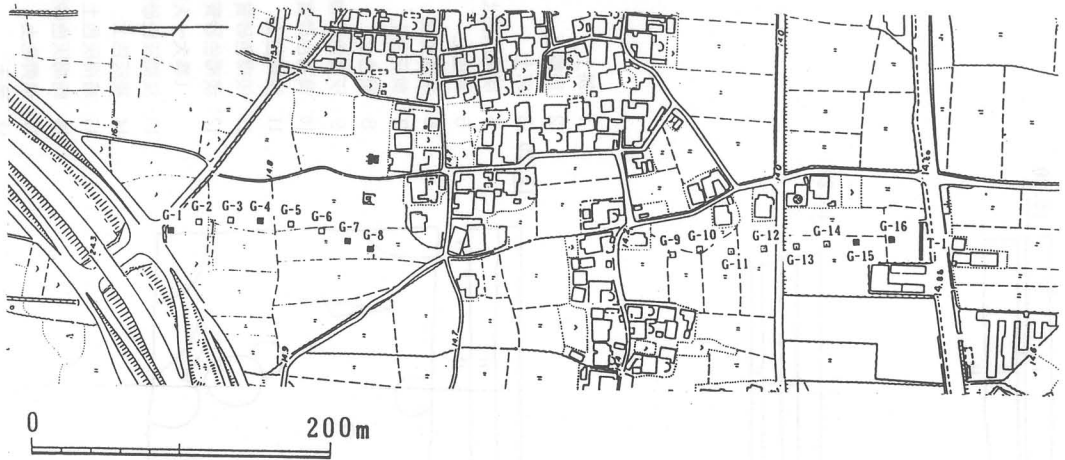
今回、同地区西端部を南北に走る太子町道立岡山線の道路改良工事が行なわれる事になり、分布調査を実施したところ遺物の散布が見られた為、平成4年度工事の行なわれる太子竜野バイパスより南の1工区間140mと、国道2号線より北側の2工区間166m部分について遺跡確認調査を実施したものである。なお、1工区と2工区間は約160mを隔てている。

調査対象地は、1工区間は標高15,00m前後の水田、2工区間は標高13,70m~14,40mの水田である。

### 8 調査の概要

確認調査は2×2mのグリッドを20m間隔で設定して実施した。グリッドは随時拡張、増設するものとした。

2工区間のG-16で遺構を検出した為、10m南で幅1,5m、長さ14mのトレンチを設定し最終的には、1工区間でグリッド8箇所、2工区間でグリッド8箇所、トレンチ1本の調査となった。なお、検出した遺構は平面での確認だけに留めた。



第3図 グリッド・トレンチ配置図

以下各グリッド・トレンチについて概略を記す。

### 1工区

#### G-1

耕土直下で黄褐色砂質土となり、淡褐灰色砂礫土と続く。黄褐色砂質土面で焼土坑1箇所、ピット1箇所が検出された。

#### G-2

耕土、旧耕土、灰褐色砂礫土で淡褐色砂質土となる。

#### G-3

耕土、黄灰色砂礫土で、淡褐色砂質土となる。この下層に拳大から人頭大の礫を含む淡褐色砂質土が続く。

#### G-4

耕土、淡褐灰色土・床土、褐色土、淡褐灰色土で淡褐色土となり、淡褐色砂質土が続く淡褐色土面でピット1箇所が検出された。

#### G-5

耕土、黄灰色土・床土、淡灰色土、黄色土、淡褐灰色土で褐灰色土となる。

#### G-6

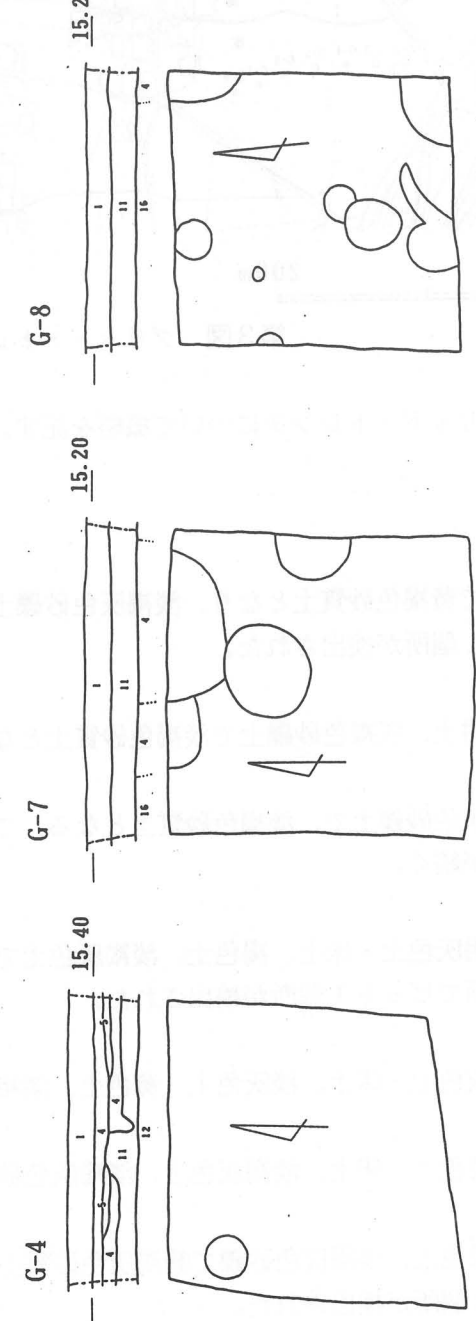
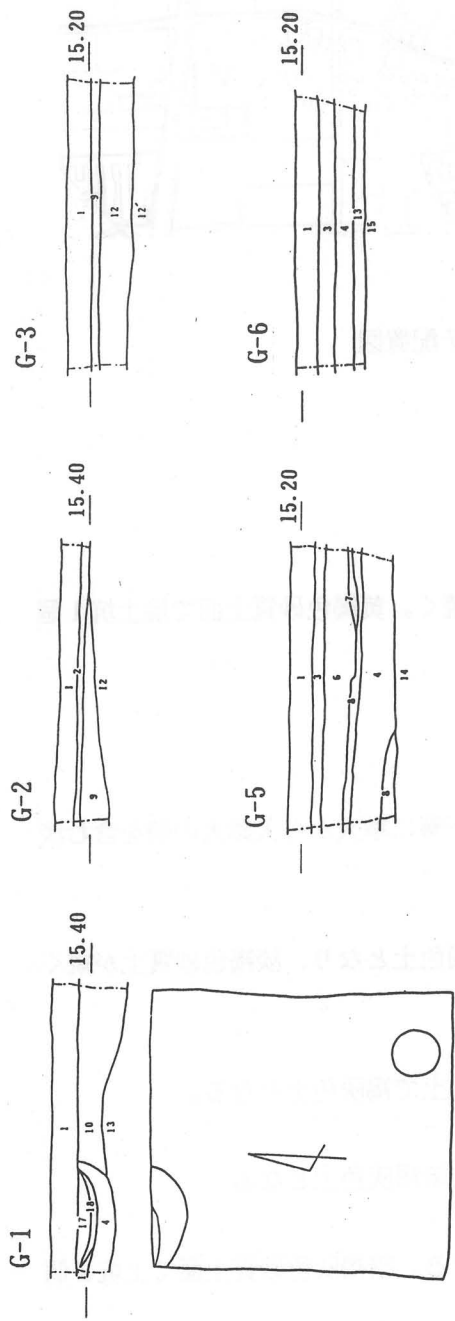
耕土、淡黄色土・床土、淡褐灰色土、淡褐灰色砂礫で暗褐灰色土となる。

#### G-7

耕土、淡褐色土、淡褐灰色砂礫で暗褐灰色砂質土となる。暗褐灰色砂質土面で土坑2箇所、ピット2箇所が検出された。

#### G-8

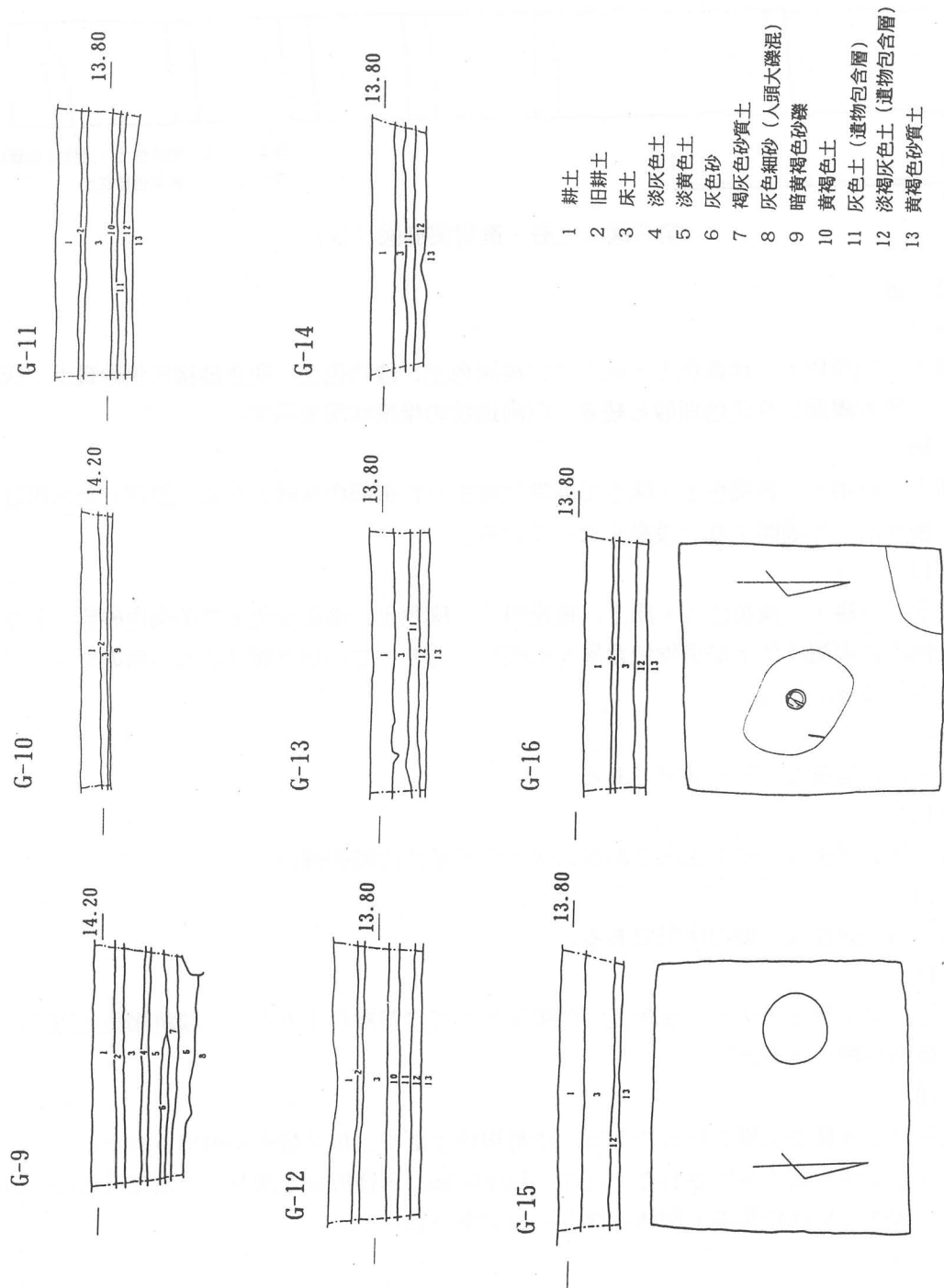
G-7と同様な土層の状況である。暗褐灰色砂質土面で土坑2箇所、ピット6箇所が検出された。



- 1 耕土
- 2 旧耕土
- 3 床土
- 4 淡褐色土
- 5 褐色土
- 6 淡灰色土
- 7 黄灰色土
- 8 黄色土
- 9 灰褐色砂礫
- 10 黄褐色砂質土
- 11 淡褐色土
- 12 淡褐色砂質土
- 12' 淡褐色砂質土
- (拳大~人頭大礫)
- 13 淡褐色砂礫
- 14 褐色土
- 15 暗褐色土
- 16 暗褐色砂質土
- 17 淡黄色土
- 18 黄土



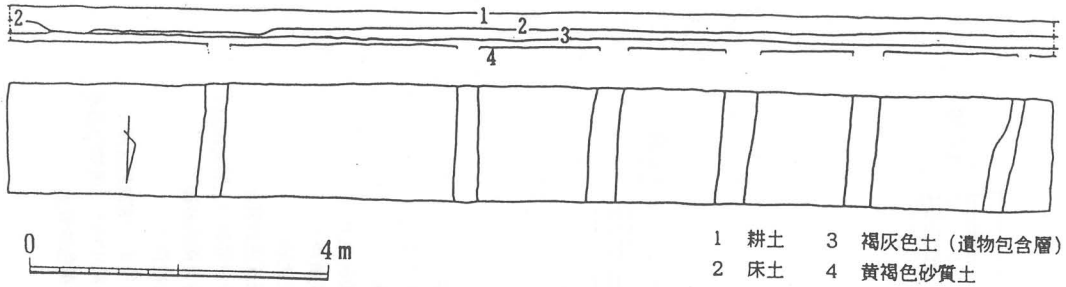
第4図 土層・遺構実測図(1)



第5図 土層・遺構実測図 (2)

T-1

13.80



第6図 土層・遺構実測図(3)

## 2工区

G-9

耕土、旧淡耕土、淡黄色土・床土で、淡灰色土、淡黄色土、灰色砂褐灰色砂質土、灰色砂、人頭大礫混じり灰色細砂と続き、旧河道状の堆積状況を示す。

G-10

耕土、旧耕土、黄褐色土・床土で非常に締まった黄褐色砂礫となる。設定した水田は東より張り出して周囲より一段高くなっている。

G-11

耕土、旧耕土、淡黄色土・床土、黄褐色土、灰色土、淡褐灰色土で黄褐色砂質土となる灰色土と淡褐灰色土が遺物包含層を形成しており、この包含層はこれ以南のグリッドにも見られる様になる。

G-12

G-11と同様な土層の状況である。

G-13

G-11と同様な土層の状況だが、床土の堆積は比較的薄い。

G-14

G-13と同様な土層の状況である。

G-15

耕土、淡黄色土・床土、灰色土、淡褐灰色土で淡黄褐色土となる。淡黄褐色土面でピット1箇所が検出された。

G-16

G-15と同様な土層の状況である。淡黄褐色土面で土坑2箇所が検出された。

グリッド中央部で検出された土坑は、長径0,8m、短径0,6mを測り、上面で完形の土師器の皿1個体と釘状鉄製品1個体を伴うものであった。

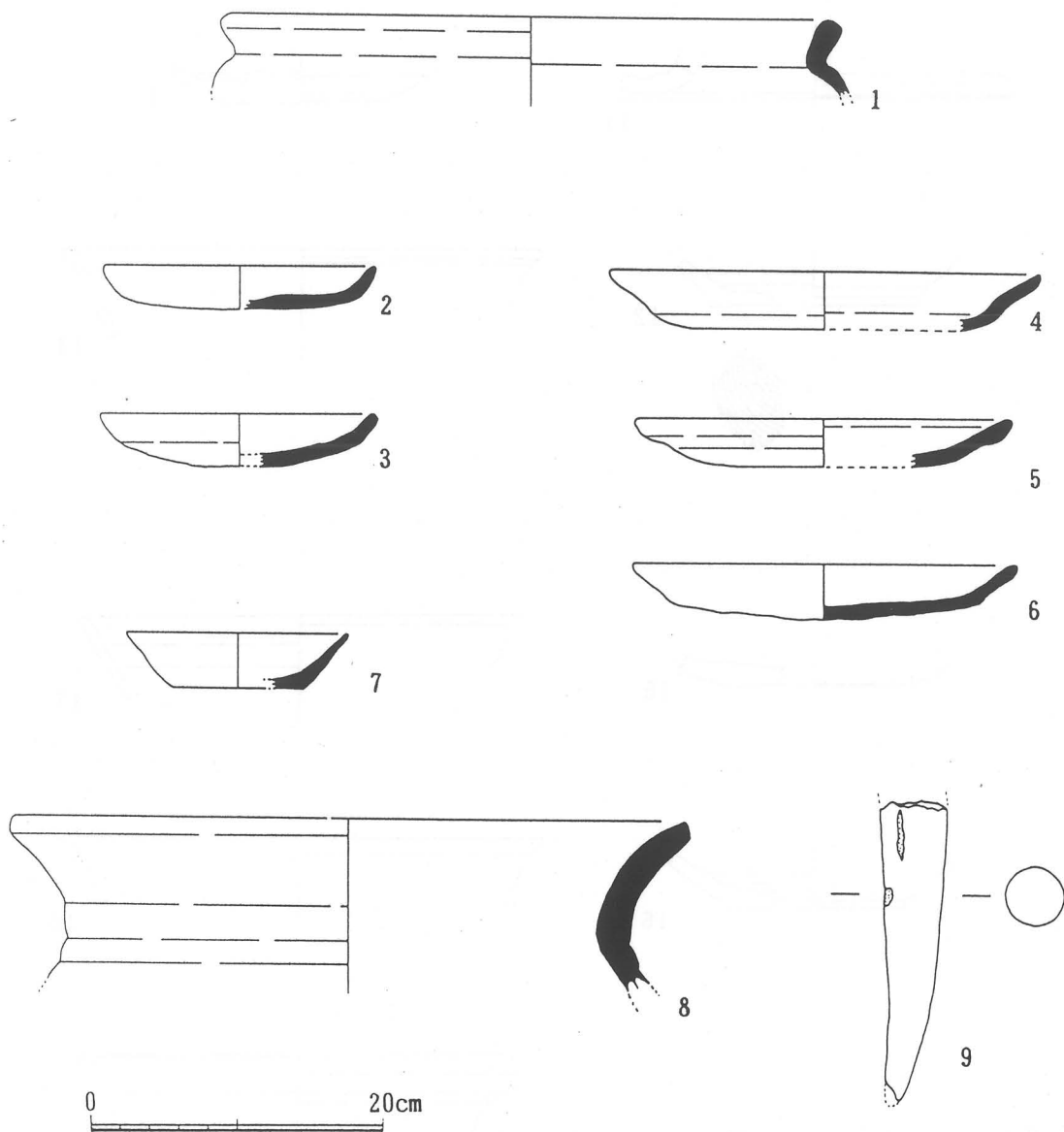
T-1

G-16の南で東西方向に追加設定したものである。土層は、G-15, 16と同様な状況である。南北方向の幅0,20~0,45mを測る溝6条が検出された。

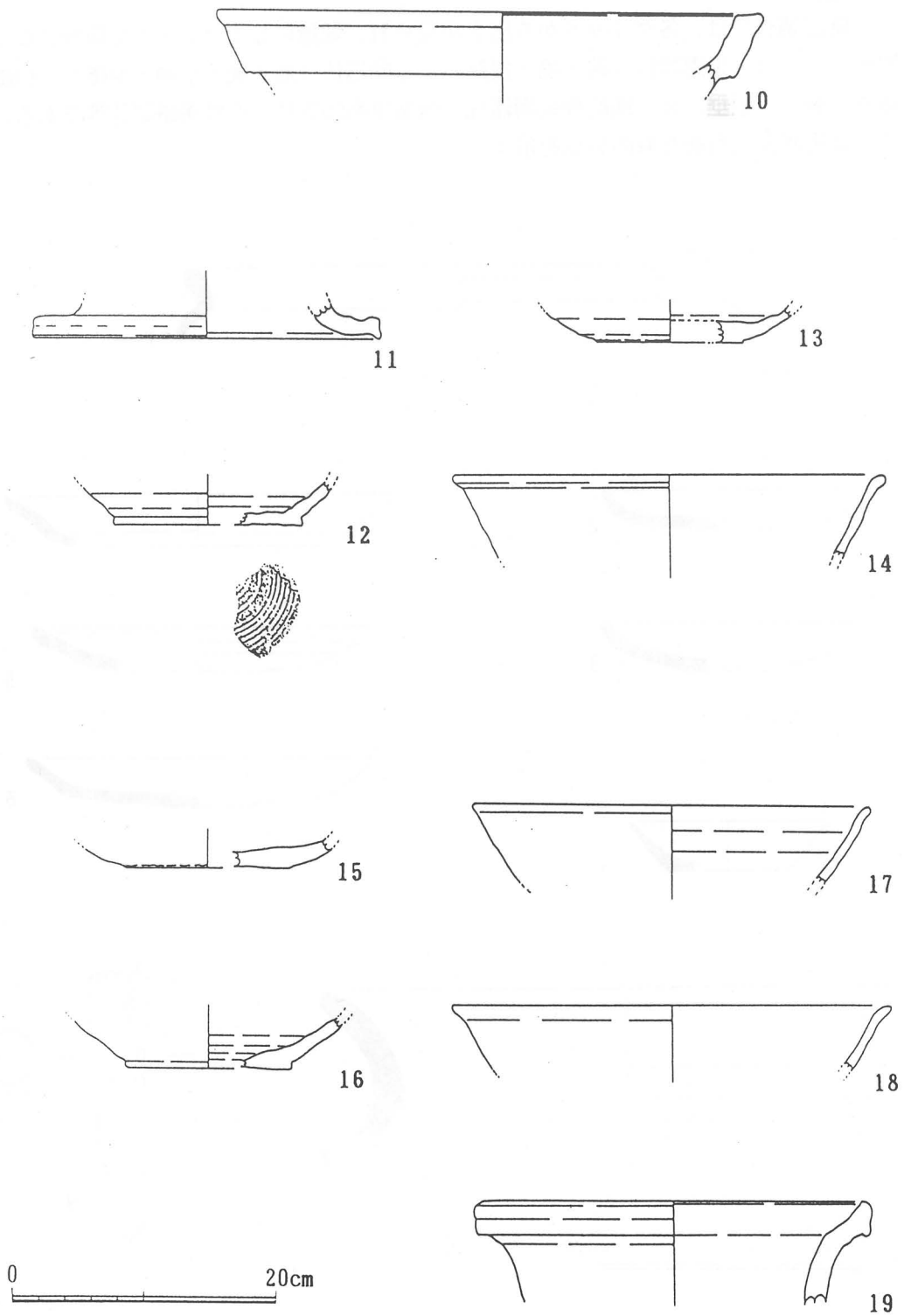


## 9 出土遺物

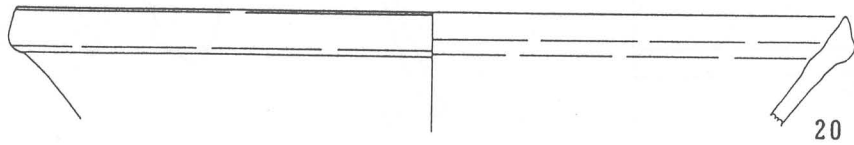
今回の確認調査では、各グリッドから出土が見られ、総量にしてコンテナ2箱分になった。器種としては、須恵器片（碗・甕・捏鉢）、土師器片（皿・甕・土埴・羽釜）、白磁・青磁片（碗）、土錘、瓦、備前焼系陶器片、信楽焼系陶器片、近世陶磁器片等である。ここには実測図化可能なもの35点を示す。



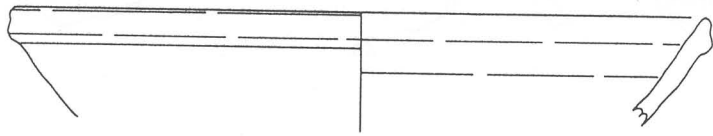
第7図 遺物実測図（1）



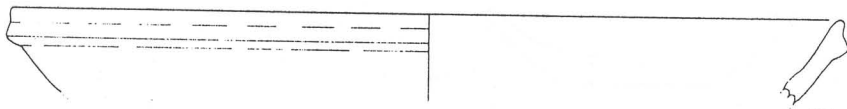
第8図 遺物実測図(2)



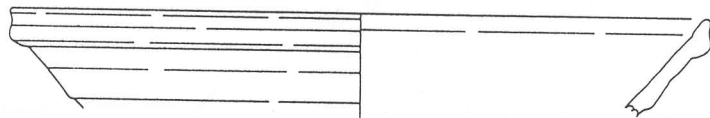
20



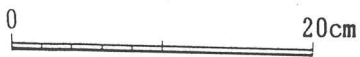
21



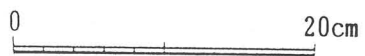
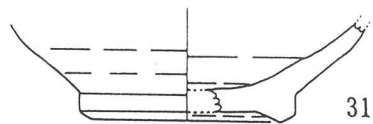
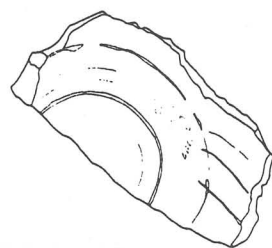
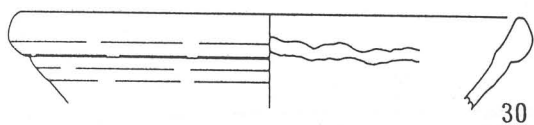
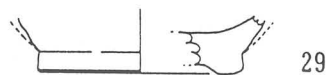
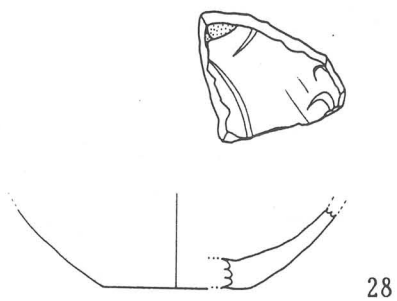
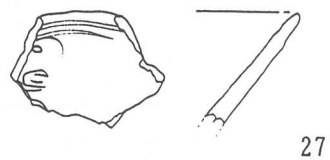
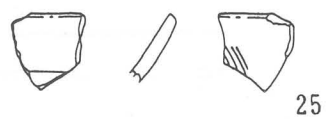
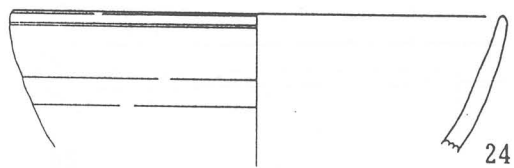
22



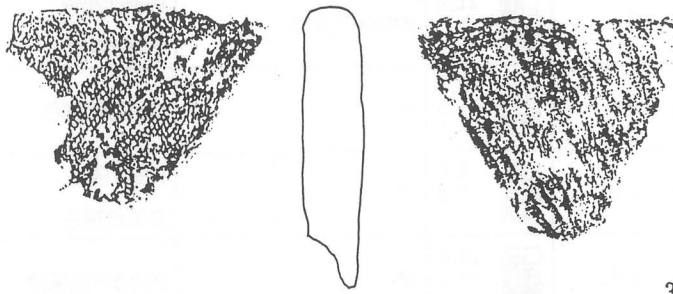
23



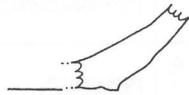
第9図 遺物実測図(3)



第10図 遺物実測図(4)



32



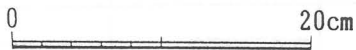
33



◎ 34



◎ 35



第11図 遺物実測図（5）

#### 10 まとめ

今回の確認調査により1工区間4箇所（G-1・4・7・8）、2工区間3箇所（G-15・16・T-1）で土坑・ピット・溝等の遺構が検出され、工事対象地内には遺跡の存在が確認された。又、2工区G-11以南では中国製陶磁器を含む中世の遺物包含層も確認された。遺跡の時期については、遺物等から中世以降と考えられる。

遺構の検出された区間については全面調査を実施する様、関係者と協議しとりはかった



番号	器形	出土遺構	法量	胎土	色調	調整その他
1	土師 甃	G-9	□径 21,4 底径 — 器高 —	砂粒多く含む	内面明褐色 外面黒褐色	内外ヨコナデ 焼成良好
2	土師 皿	G-16	□径 9,4 底径 1,5 器高 —	密	内外面淡褐色	内外面ヨコナデ 焼成良好
3	土師 皿	G-16	□径 9,5 底径 1,8 器高 —	密	内面白褐色 外面淡褐色	内外面ヨコナデ 焼成良好
4	土師 皿	G-16	□径 14,8 底径 — 器高 —	密	内外面淡赤褐色	内外面ヨコナデ 焼成良好
5	土師 皿	G-16	□径 13,0 底径 — 器高 —	密	内外面淡褐色 口縁部淡赤褐色	内外面ヨコナデ 焼成良好
6	土師 皿	G-16土坑	□径 13,2 底径 1,9 器高 —	密	内外面淡橙色	内外面ヨコナデ 焼成良好
7	土師 皿	T-1	□径 7,6 底径 4,4 器高 1,9	わずかに砂粒を含む	内外面淡白褐色	摩耗のため調整不明 焼成軟
8	瓦質 甃	G-14	□径 23,4 底径 — 器高 —	0,5~2mm 大の砂小石を含む	内外面黒色	摩耗のため調整不明 焼成軟
9	瓦質土鍋足	G-14	□径 — 底径 — 器高 —	砂粒わりと多く含む	内外面黒色	焼成やや軟
10	須恵 甃	G-5	□径 20,0 底径 — 器高 —	わずかに細砂粒含む	内外面暗灰色	内外面ヨコナデ
11	須恵 脚端	G-9	□径 13,4 底径 — 器高 —	細砂粒わずかに含む	内外面明灰色	ヨコナデ 焼成良好
12	須恵 碗	G-9	□径 — 底径 7,2 器高 —	細砂粒含む	内外面白灰色	ヨコナデ 底部外面糸切 焼成良好
13	須恵 碗	G-9	□径 — 底径 5,6 器高 —	細砂粒わずかに含む	内外面暗灰色	ヨコナデ 底部外面糸切 焼成堅緻
14	須恵 碗	G-9	□径 16,6 底径 — 器高 —	密	内外面白灰色 口縁部灰色	ヨコナデ 焼成堅緻
15	須恵 碗	G-11	□径 — 底径 6,4 器高 —	わずかに砂粒含む	内外面淡褐灰色	ヨコナデ 底部外面糸切 焼成不良
16	須恵 碗	G-11	□径 — 底径 6,2 器高 —	細砂粒多く含む	内外面明青灰色	ヨコナデ 底部外面糸切 焼成やや軟
17	須恵 碗	G-11	□径 15,2 底径 — 器高 —	わずかに砂粒含む	内外面白灰色	ヨコナデ 焼成やや軟

※法量の単位はcm

表1 遺物観察表(1)

18	須恵 碗	G-11	口径 底径 器高	16,8 — —	わずかに細砂粒含む	内面明灰色 外面灰色	ヨコナデ 焼成良好
19	須恵 甕	G-11	口径 底径 器高	15,2 — —	密	内外面暗灰色	ヨコナデ 焼成良好
20	須恵 捏鉢	G-15	口径 底径 器高	28,4 — —	密	内外面青灰色 口縁外面黒灰色	内外ヨコナデ 焼成良好
21	須恵 捏鉢	G-15	口径 底径 器高	23,5 — —	0,5~1mm 大の砂粒を 含む	内外面灰色 口縁外面黒灰色	内外ヨコナデ 焼成やや軟
22	須恵 捏鉢	T-1	口径 底径 器高	28,0 — —	わずかに細砂粒含む	内外面明灰色 口縁外面暗灰色	内外ヨコナデ 焼成良好
23	須恵 捏鉢	T-1	口径 底径 器高	23,4 — —	わずかに細砂粒含む	内外面灰色 口縁外面暗灰色	内外ヨコナデ 焼成良好
24	青磁 碗	G-4	口径 底径 器高	16,6 — —	密	内外面淡緑色	釉薬のため不明 焼成堅緻
25	青磁 碗	G-5	口径 底径 器高	— — —	密	内外面淡褐緑色	釉のため不明
26	青磁 碗	G-15	口径 底径 器高	— — —	密	内外面淡青灰緑色	内外面に劃花文を施文 焼成堅緻
27	青磁 碗	G-15	口径 底径 器高	— — —	密	内外面明青緑色	内面に劃花文を施文 内外面とも貫入あり 焼成堅緻
28	青磁 碗	T-1	口径 底径 器高	— — —	密	内外面淡青灰緑色	内面に劃花文を施文 焼成堅緻
29	白磁 碗	G-9	口径 底径 器高	— 7,8 —	密	内外面明白褐色	外底部削り出し高台 内面釉のため不明 焼成堅緻
30	白磁 碗	G-13	口径 底径 器高	17,4 — —	密	内外面明青面暗灰色	設釉のために不明 焼成良好
31	白磁 碗	T-1	口径 底径 器高	— — —	密	外面灰白色 内面淡灰緑色の釉	外面ロクロナデ 底部削り出し高台 焼成堅緻
32	瓦	G-13	口径 底径 器高	— — —	0,5~2mm 大の小石粒含 む	内外面黒灰色	凸面縄目 凹面布目 焼成軟
33	信楽 鉢?	T-1	口径 底径 器高	— — —	1~2mm 大の砂粒を含む	内面明黄緑色の釉 外面明灰色一部茶色	内面釉のため調整不明 外面ヨコナデ 焼成堅緻
34	土 錘	T-1	径長	1,1 —	密	淡褐白色 黒斑	焼成やや軟
35	土 錘	T-1	径長	1,0 4,7	密	淡黄褐色	焼成軟

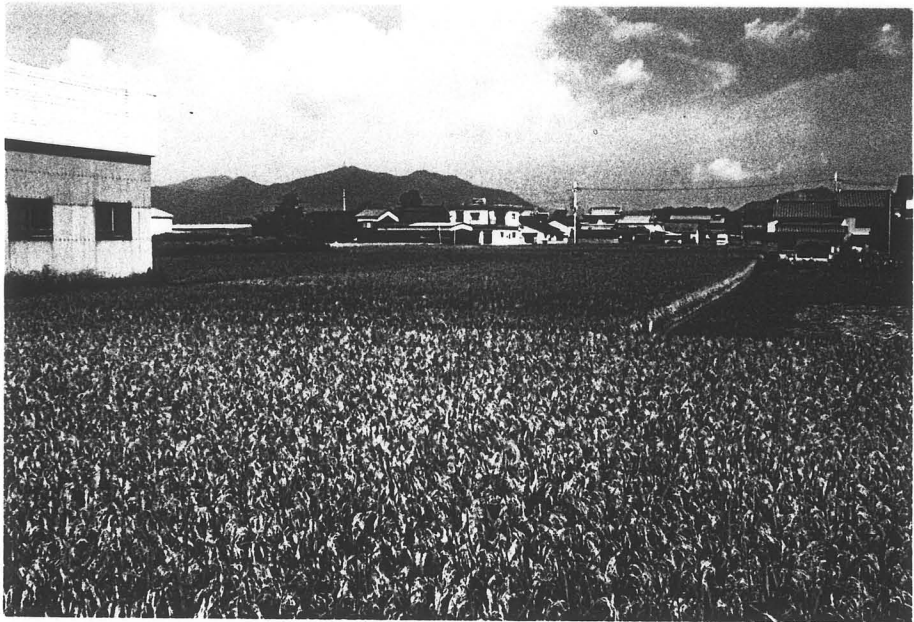
※法量の単位はcm

表2 遺物観察表(2)

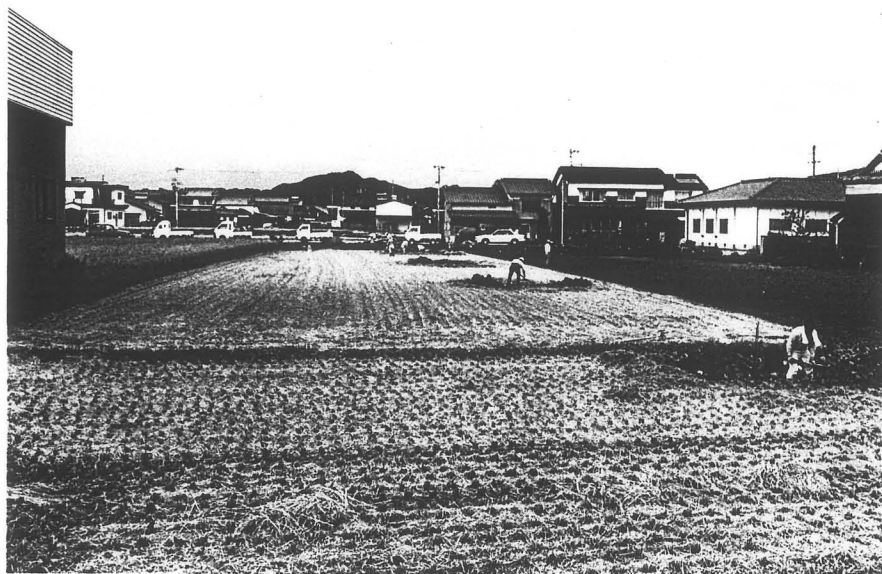




調査前 1工区間 (北から)



調査前 2工区間 (南から)

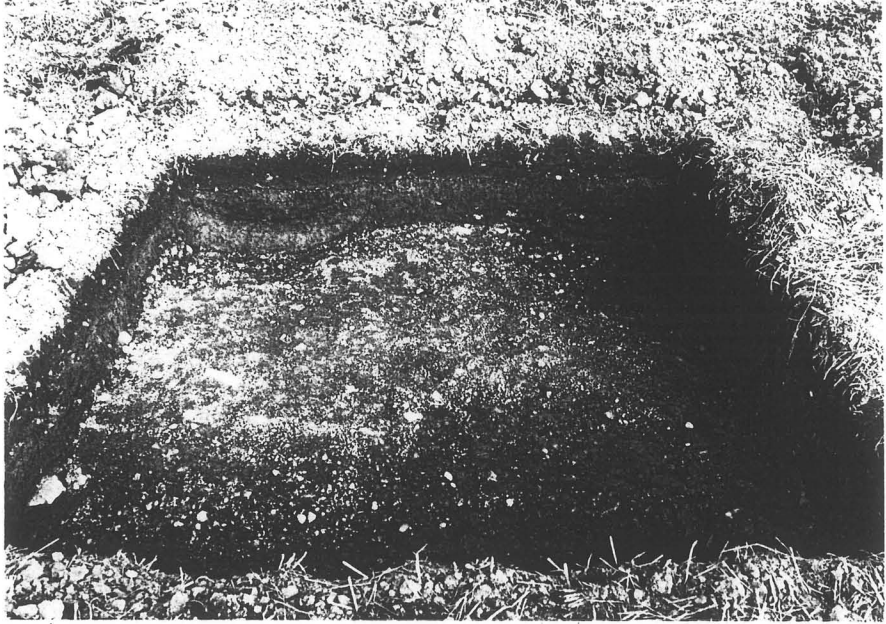


発掘調査風景

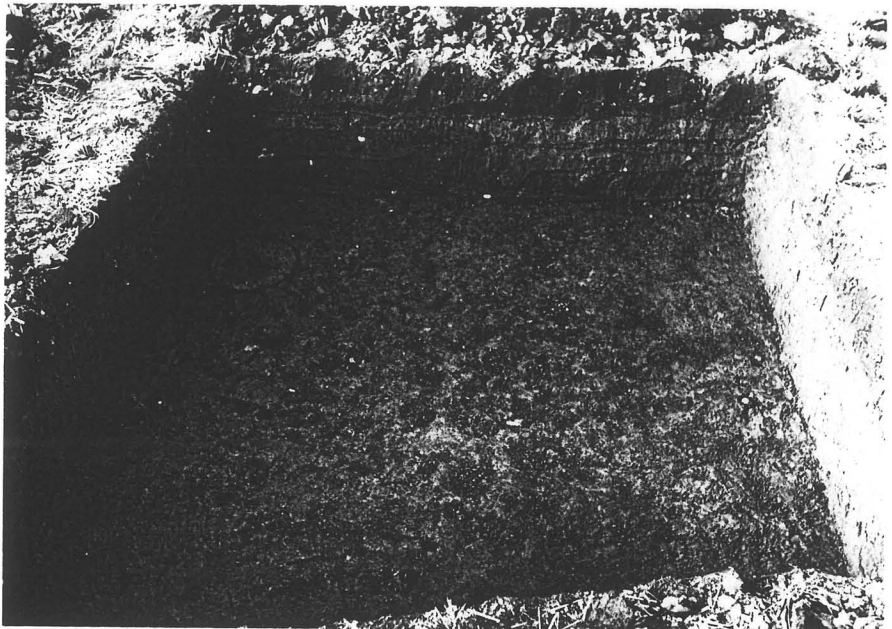


発掘調査風景

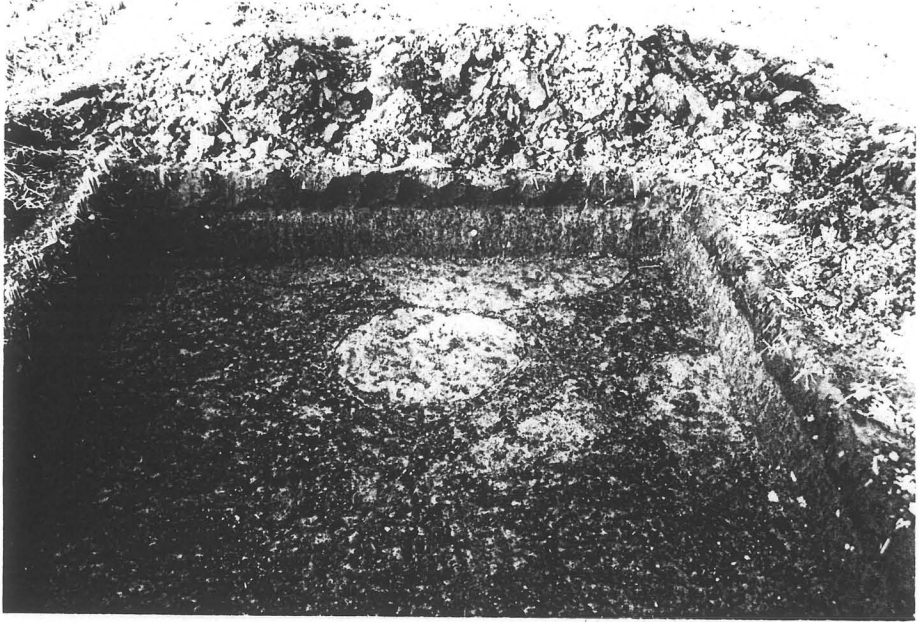




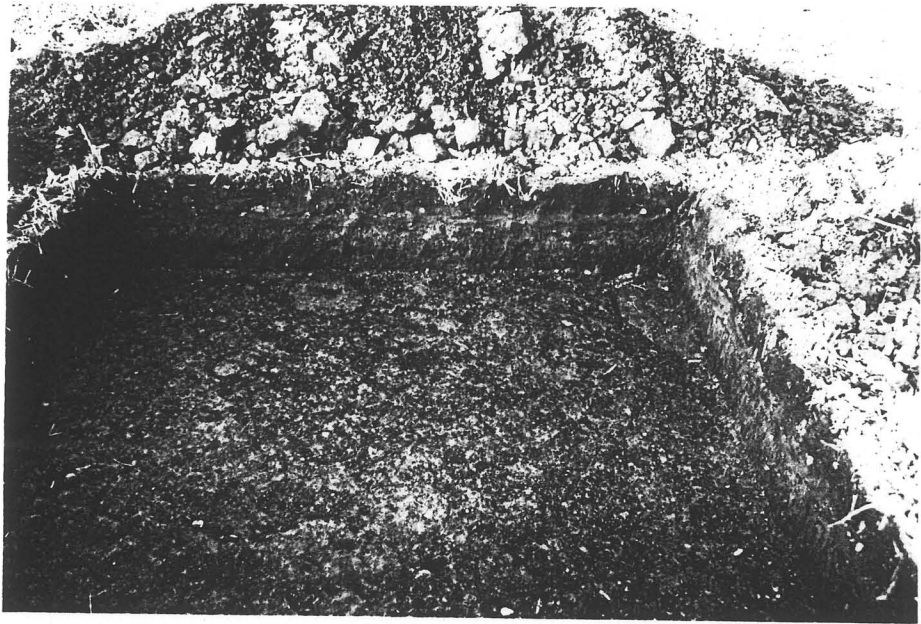
G-1 (南から)



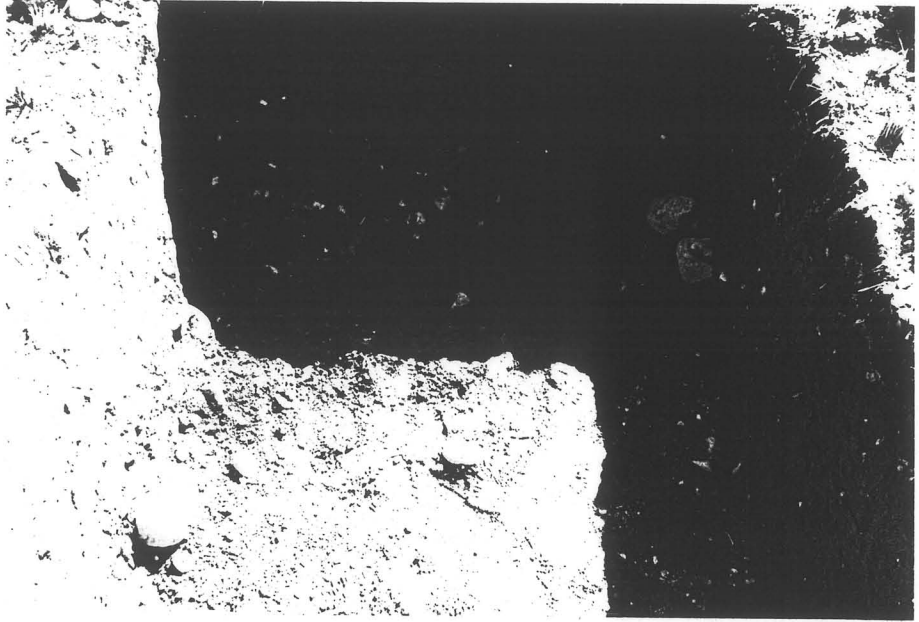
G-4 (南から)



G-7 (南から)



G-8 (南から)



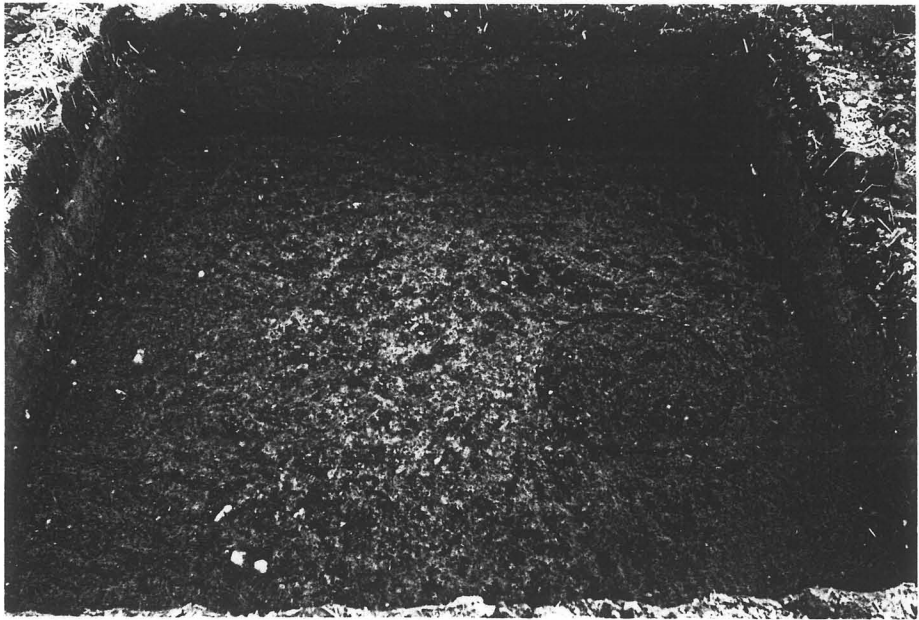
G-9 (北から)



G-10 (北から)



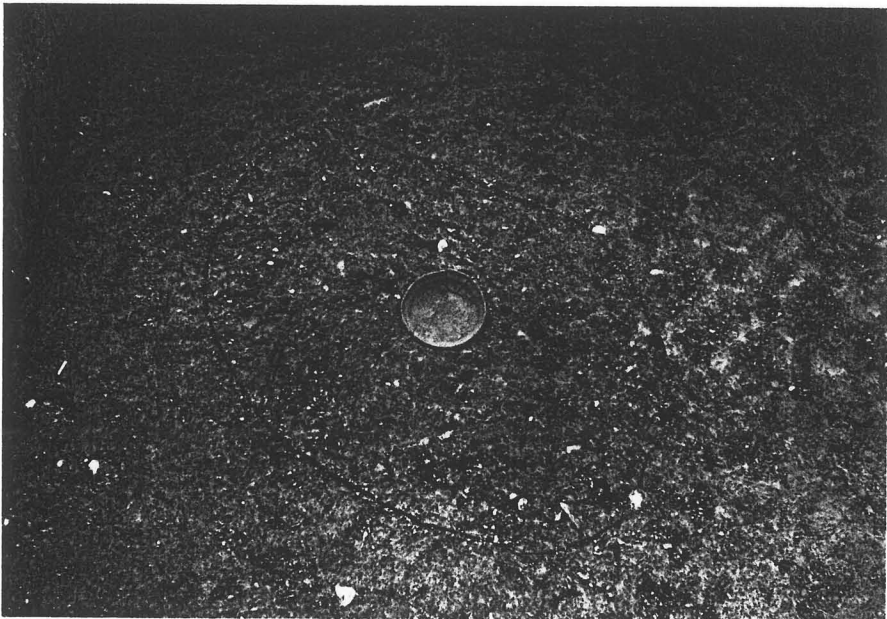
G-11 (北から)



G-15 (北から)



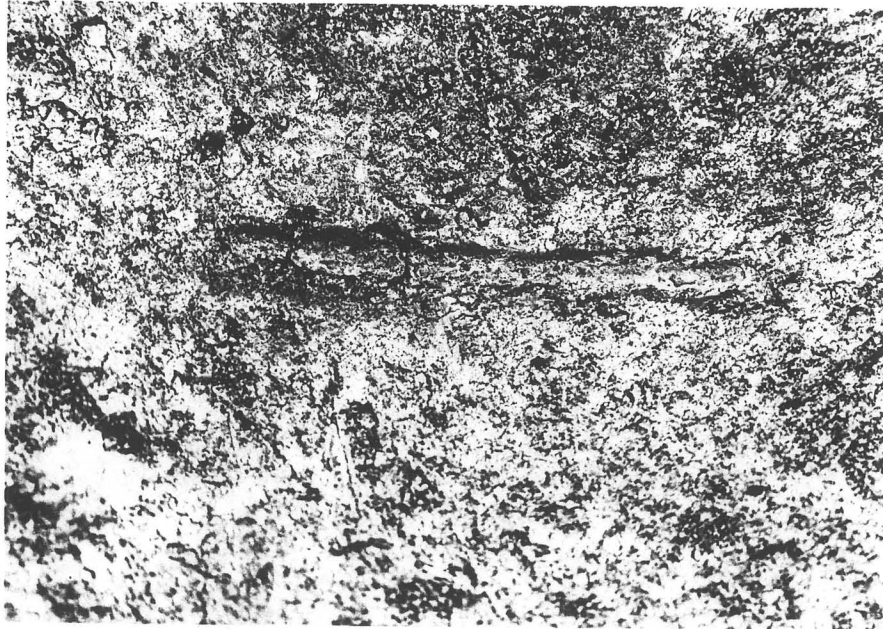
G-16 (東から)



G-16 土坑検出状況 (北から)



G-16 土坑遺物出土状況 (西カ5)



G-16 土坑遺物出土状況 (西カ5)

